### system queries

現在実行中のすべてのクエリの状態を照会します。管理者はシステム上で実行されたすべてのクエリを、一般ユーザーアカウントは自身が実行したクエリのみを照会できます。

#### 構文

system queries

#### 説明

本コマンドはクエリ実行履歴を出力します。各レコードは以下のフィールドで構成されます。

* id（整数）：クエリ識別子
* query\_string（文字列）：クエリ文字列
* is\_eof（ブール値）：クエリ終了状態（true：終了、false：実行中）
* is\_end（ブール値）：クエリ終了状態（true：終了、false：実行中）
* is\_cancelled（ブール値）：クエリキャンセル状態（true：キャンセル済み、false：キャンセルされていない）
* start\_time（整数）：クエリ開始時刻（単位：epoch）
* finish\_time（整数）：クエリ終了時刻（単位：epoch）
* last\_started（時刻）：最終リフレッシュ時刻
* elapsed（整数）：クエリ実行所要時間（単位：ms）、クエリが開始されていない場合はnull
* background（ブール値）：バックグラウンド実行状態（true：バックグラウンドクエリ、false：バックグラウンドクエリでない）
* commands（オブジェクト）：詳細コマンドごとの実行状態
* sub\_queries（配列）：サブクエリ一覧
* is\_scheduled\_query（ブール値）：スケジュール済みクエリかどうか（true：スケジュール済み、false：スケジュールされていない）
* login\_name（文字列）：クエリ実行ユーザー
* remote\_ip（文字列）：クエリ実行ユーザーの接続IPアドレス
* rows（整数）：クエリ実行結果として返されたレコード数

クエリ文で system queries コマンドの結果を参照する際は、is\_end の代わりに is\_eof をご利用ください。is\_end は下位互換性のために残されたレガシーフィールドです。